



正木地区の篠山(1,065m)の山頂付近で、今年もアケボノツツジが淡いピンク色の花を咲かせ、多くの登山者の目を楽しませました。(4/20頃～4月末頃)



4月16日、蓮乗寺の愛南町消防庁舎の運用が開始されました。同日実施された「落成・開所式」には関係者約50名が出席し、本町の新しい防災拠点の完成を祝いました。



山間地域ならではの棚田が広がる山出地区の田植え作業の風景です。同地区では、先人たちが作り上げ残してくれた棚田をしっかりと受け継ぎ、その美しい景観を守り続けています。(4月中旬)



高齢女性が特殊詐欺被害に遭うのを未然に防いだとして、愛南署がえひめ南農協御荘支所に感謝状を贈りました。感謝状を受け取った農協職員の伊井幸子さんによると、4月23日、詐欺被害防止用のアンケートの記入にためらう高齢女性を不審に思い警察に通報したそうで、その後の愛南署の迅速な対応で特殊詐欺と判明、未然阻止につながりました。同支所の平田伸二支所長は「被害防止に向け、積極的な声かけや職員間の連携をさらに強化したい」と話しました。(4/30)



御荘平城の八幡神社で交通安全祈願祭が行われ、5月11日から10日間実施された「春の全国交通安全運動」期間中の町内の交通安全と、愛媛県が掲げる「交通事故抑止“アンダー50”」の達成を祈願しました。(5/11)



あんなにうきや、こんなうき

FLOWN PLYA

写真 3 写真 4

5/ 8.15 実際に見て、触れて・・・ 小さな命の大切さを学びました

砥部動物園による「移動動物園」が5月8日に緑小学校、15日には久良小学校を訪問しました。

参加した児童は、砥部動物園からやってきたウサギやモルモットを膝の上ののせてもらったり、恐る恐るへびに触ったりするなど、普段はできない貴重な体験を満喫したほか、動物の体の仕組みなどについて学習しました。学習会では、飼育員の方からいろいろな動物の心臓の大きさや、心臓の大きさによって脈拍のリズムが違うことなどを学び、実際に聴診器を使用してウサギの心音を聴く体験では、その心音の速さに驚きの表情を見せていました。

児童たちは小動物との触れ合いを通して、動物の体の仕組みだけでなく、生命の尊さも学んだようでした。

写真 6

5/ 3 釣りで家族のふれあい

福浦地区の一文字防波堤で、町観光協会（山下常臣会長）主催の「愛南ファミリー釣り大会 2015」が開催されました。大会には県内外の19家族73名が参加し、家族の交流を深めながらホゴやグレなどを次々と釣り上げました。

順位は釣り上げた魚の3匹の合計重量で決まり、チヌ1匹とグレ2匹の合計重量が2.54kgだった高知県の山下由加さんファミリーが優勝しました。

本日！海日和！！ vol155 「美しきレインコート」



セスジミノウミウシ

梅雨になり傘が手放せない季節になった。雨具の一つに蓑(みの)があるが、今では昔話に登場するくらいである。

ミノウミウシの仲間は、背中にたくさんの突起があり、蓑を背負っているように見えるのでこの名がついた。美しい色をしているものも多く、ダイバーの人気者である。写真のセスジミノウミウシは体長が3cm程で、背中に赤い筋があるのが特徴である。

ゆらゆらと華麗にゆれる突起の先には、なんと毒針が仕込まれており、刺激を受けると即座に発射される。まさに高性能のミサイルだが、形もなんだか似ている。派手な色は水中でもよく目立ち、自分が毒をもっていることをアピールする警告色と考えられる。

蓑は資料館でしか見ることができなくなったが、ミノウミウシはいつまでも身近で見られるよう、愛南の海を守っていかなければならない。

(撮影地：横島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照



写真 1
4/ 17 「なーしくん」の歌をお披露目！

御荘平城にお住まいの女性アマチュアミュージシャンけだまよしおさん(本名: 國光歩さん)が、愛南町ご当地キャラクター「なーしくん」のイメージソング『なーしがいっぱい愛南町』を制作し、一本松保育所でお披露目ライブを行いました。

「♪うれしいなーし たのしいなーし なーしがいっぱい愛南町」。温もりのある歌声と歌詞は園児たちに大変好評で、「もう一回歌ってほしい」とアンコールが起こるなど、ライブは大いに盛り上がりました。

写真 2
4/ 25 障害者との交流を広げよう

障害者の社会参加を促進し、障害者への理解を深めて交流の輪を広げようと、南宇和障害者の社会参加を進める会主催による「第20回あまなつコンサート」が、社会復帰施設「平山寮」で開催されました。

平山寮に隣接する倉庫内の特設ステージでは、町内外からの出演者がコーラスや演奏を披露し、会場周辺では、各種団体によるバザーなども行われました。

写真 5
5/ 11 早乙女姿でお田植え祭り

柏地区の金峯神社近くの神田で初夏恒例の「お田植え祭り」が行われ、柏小学校の4～6年生の女子児童15名が可愛らしい早乙女姿で参加しました。

神社での神事を終えた早乙女たちは、泥に足を取られながらも縄の印に合わせて丁寧にもち米の苗を数本ずつ植えていき、途中からは男子児童14名の手も借りて1時間余りで3反ほどの田んぼに苗を植え終わりました。

もち米は9月上旬に収穫され、柏地区の敬老会や秋祭りです。